



高砂青松 Rotary Club

The Rotary Club of Takasago Seisho, Japan



新年家族例会開催される

開催日 平成21年1月17日(土) 於: ウェディングパレス鹿島殿

会長挨拶



皆様、改めまして新年明けましておめでとうございます。

本日は、ご家族を交えての新年例会ということで、澤田委員長はじめ親睦委員会の皆さんには、趣向を凝らした準備をして頂いております。このひとときを存分に楽しんで頂き親睦を深めていただきたいと思いますものと願っております。

今年は、例年になく大勢の皆さんにご出席頂き、喜んでおります。

さて、14年前の今日、1月17日の早朝5時46分に、あの阪神淡路大震災が発生致しました。被害の大きかった地区では、いろんな追悼行事が行われたようでございます。「災害は、忘れた頃にやってくる。」と言われております。

震災当時を思い起こしながら、非常時に備えられるように対策を練っておきたいものと思っております。

ところで、昨年7月に増田直前会長の後を引き継がせて頂きました。皆様のご協力のお陰をもちまして大過なく前半を終えることができました。ありがとうございました。岡本幹事をはじめとして、会員の皆様の支えを頂戴しながら残る任期を全う致したく思っております。今後共に、よろしく願い申しあげまして、ご挨拶と致します。



喜寿のお祝い（西田光衛会員・鹿間虹美会員）

ターリークラブ新年家族例会



祝
宴



正月用リース





ビンゴゲーム



花束贈呈



記念品贈呈





手に手つないで



終わりの言葉

新年家族例会の終りにあたり一言ご挨拶申し上げます。

本日は忙しい中を沢山の御参加をいただき有難う御座いました。親睦の皆様が力を合わせて企画・推進していただいたおかげで、良い時間を送らせていただきました。

さて私こと 次の会長はお前の番だと言われてから早くも一年になりました。想いもよらない事で当惑していましたが、ある時、止められない酒を飲みながら、薬を飲んでいる自分に気づきました。あ～これこれ、自分が気付かない間に、このような役が回ってくる年になっていたんだなぁ～と想いました。

早速、今日予定表をいただきましたが2月以降6月までに6回の研修日程があります。研修の好きな団体だなぁと思いました。

さて、次年度の事業の事ですが、以前から収支状態がよろしくありませんよ、損な役割かもしれないが、「何とかしないとイケません」と言われていますので、収支改善に取り組むのですが、外的事業は、良い方向に向かってるので、内的事業の予算削減から、各委員長さんと相談しながら実行したいと思います。

次に出席率の向上をめざします。最近、空席が目立ちますが、これを放置すると皆が気楽に休み易くなります。歯抜けは自分には目立ちませんが、他から見るとあまり快いものではありません。次をお願いしている委員長さんも同様の考えをもっておられるので心強く思っています。

次に次年度は世界的に経済が大変な時なので、より一層の参加意義がもてる様な方法がないかを考えてみたいと思います。そこで、色々な仕事の事を経理の面から良く御存知の人に委員長をお願いしています。何か良いアイデアが出てくるものと期待していますが、職業奉仕の委員長様にも同意いただいていますので、これまた心強い限りです。一年限りの事で充分満足のいく事業がやりとげられるとは思いますが、とにかく一步前へ歩を進める事が大事なので、はっきりと善悪がわかりにくい事業であってもファジーのまま進んで行きたいと思います。

以上の事を御理解の上、皆様の御協力をお願いいたします。

副会長 菱田克己



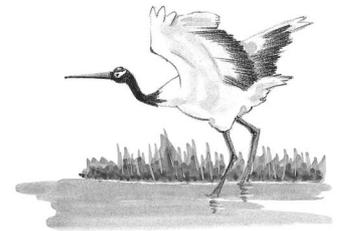


Donation

ニコニコ報告

謹賀新年 新年家族例会を祝して!!

青木 裕加・伊藤 勝之・井野 隆弘・岩崎 勇人・植杉成一郎・大森 明夫
 大森 千里・岡本 崇司・垣迫 雅一・亀本 泰司・京谷 慎平・小西 文孝
 澤田 孝彦・志方 正昭・鹿間 行雄・嶋谷 拓雄・砂川 仁史・竹原 俊三
 田中 浩行・田水 敬雄・都倉 達殊・中右 和宏・中谷 利幸・西田 光衛
 西中 亮二・原田 義之・菱田 克己・廣瀬 明正・藤本 明久・増田耕太郎
 森脇 祥文・矢野 聡・渡辺 弥生



例会記録 2009. 1. 17 (土) 通算1465回

ソング 「君が代」「奉仕の理想」

出席報告 12月23日 会員数 52名 欠席者 17名 出席率 72.09% <修正による>
 (この内出席免除者9名)

1月17日 会員数 52名 欠席者 11名 出席率 77.08%
 (この内出席免除者9名)

誕生祝

内海 薫 会員・田水 敬雄 会員
 菱田 克己 会員・塩谷 武彦 会員

結婚祝

植杉成一郎 会員・塩谷 武彦 会員
 嶋谷 拓雄 会員・西田 光衛 会員



前回No.25 分誕生祝・結婚祝を紙面の都合上ここに掲載します。

森 はな (もり・はな) 超遅咲きの児童文学作家

「遅咲きの新人」としてマスコミに取り上げられたのも当然だろう。なにしろ処女作の児童文学「じろはったん」を刊行、児童文学作家の登竜門である日本児童文学者協会の新人賞に輝いたのが64歳の時だから…。もちろん最高齢である。この快挙で森はなの名前は一躍全国に知れ渡った。



明治42(1909)年、兵庫県養父郡大蔵村宮田(現朝来市和田山町)で生まれた。そんなはなが播磨と関わりを持ったのは大正13(1924)年のことである。15歳の時、但馬の郷里を離れ明石女子師範学校(神戸大学発達科学部の前身)に入学した。もちろん、小学生のころから夢見ていた先生になるためである。

昭和3(1928)年、師範学校を卒業した19歳のはなは、念願の教員免許をゲット。但馬に戻り、養父郡南谷小学校に赴任した。その後養父小学校に転校。このころから夫となる森種樹との文通が始まり大恋愛のすえに昭和7年結婚した。文学青年だった種樹は、はなにとって文章の先生でもあった。

はなが再び播磨にやってきたのは昭和11年。夫婦そろって高砂の小学校に転任となった。住まいは加古川にある夫の実家。はなは荒井小学校に15年勤める間に、なんと5人の子を育てている。伊保小学校に移ってからは、播磨を舞台に学校劇の創作に取り組み、NHKの近畿学校劇コンクールで受賞を重ねた。

32年の教員生活にピリオドを打ったのは昭和35年。その後「神戸児童文学『あす』の会」に入会し同人誌に作品を発表するなど、作家への超遅い挑戦を始めたのである。努力が実り、代表作「じろはったん」が脚光を浴びたのは昭和48(1973)年だった。

この作品は、はなが幼少期と一緒に遊び、人の温かさを教えてくれた寺の男がモデル。80歳で亡くなるまで心温まる多くの児童文学を世に出した。現在は加古川市の口里墓地で夫種樹と眠っている。平成21(2009)年は、生誕100年にあたる。

(主な参考文献=森はなをしのぶ・ささゆりの会・編「ふるさとの語り部 森はな・人と文学」神戸新聞総合出版センター)

プログラム予定

1月28日(水)	2月7日(土)	2月11日(水)	2月18日(水)
創立メンバーによる 卓話 【ロータリー情報委員会担当】	東播第2グループI.M. 【ホスト 加古川平成R.C.】	休 会 (祝日のため)	卓話 原田会員 於:ふれあいの郷生石研修センター 【国際奉仕委員会担当】

会長 鹿間行雄 幹事 岡本崇司 クラブ会報委員長 菊地敬子

例会日時 毎週水曜日 12:30 例会場 高砂商工会議所会議室(2F)

事務局 高砂商工会議所内 〒676-0064 高砂市高砂町北本町1104 電話 (079) 443-0500(代)